日本の農業①

名前

月　日

1　次の文章を読んで、問に答えましょう

日本は国土の4分の3が山地です。そのため、耕地が狭く農業がしにくい地形です。その弱点を補うため、日本では収かく量を増やす（　1　）農業を行っています。また、日本の農家のうち農業だけで収入を得ている（　2　）農家は年々減っています。かわって増えているのが農業以外の仕事でも収入を得ている（　3　）農家です。

日本の農業の中心は稲作で、耕地面積でも稲を育てる水田がもっとも広くなっています。日本で稲作が盛んなのは（　4　）地方と（　5　）地方です。稲作が盛んな平野の代表が新潟県の（　6　）平野と山形県の（　7　）平野です。

問1　上の文章（　）に適することばをいれましょう。

1	集約(的)	2	専業	3	兼業
4	東北	5	北陸	6	越後
7	庄内				

問2　（　4　）地方や（　5　）地方で稲作が盛んな理由を答えましょう。

冬に雪が多く、豊富な雪解け水を稲作に使うことができるから

問3　（　4　）地方の太平洋側に夏に吹く冷たく湿っている北東風を何というか書きましょう。また、それによって稲が十分育たなくなる災害を何というか答えましょう。

風の名前	やませ	災害	冷害

『すたぺんドリル』(https://startoo.co/sutapen english/)

2　下の写真を見て問いに答えましょう。

①	②	③

問1　①～③の農業機械の名前を答えましょう。

①	トラクター	②	田植え機	③	コンバイン

問2　①の機械で行う農作業を答えましょう。

田おこし	しろかき

問3　③の機械で行う農作業を答えましょう。

収かく	だっこく

問4　稲作で大事なことを三つ答えましょう。

水田の水を管理すること
稲の病気や害虫を防ぐために農薬をまくこと
稲の成長をよくするため、肥料をまくこと

3　次の文章を読んで、問に答えましょう

農家の人たちは米の収かく量を増やす工夫をしてきました。たとえば、[1]小さな田を集め、形の整った大きな田につくりかえたり、用水路などを整備したりしました。また、農薬や化学肥料にたよらず、土の力を補うため（　1　）を利用するといった工夫もしています。

農家の工夫はそれだけではありません。[2]農作物や家畜などで異なる性質を持つ品種をかけあわせ、よりすぐれた品種を作り出すことも行いました。

近年、特定の産地でつくられ、産地独自の名前で売り出される（　2　）が登場しています。

品質を高く評価された（　2　）は非常に人気があります。コシヒカリやひとめぼれはその代表です。

問1　上の文章（　）に適することばをいれましょう。

1	たい肥	2	ブランド米

問2　下線1について、このことを何というか書きましょう。

耕地整理（ほ場整備）

問3　下線2について、このことを何というか答えましょう。

品種改良

4　次の文章を読んで、問に答えましょう

日本の稲作農家は様々な問題を抱えています。その一つが（　１　）の不足、そしてもう一つが（　２　）です。（　１　）や（　２　）が起きる背景には米の消費量が減っていることがあります。

1970年代以降、日本の米消費量は減り続けています。そのため、米があまるようになりました。そこで政府は稲作農家に他の作物を栽培する（　３　）や水田をいったん休ませ、米の生産を停止させる（　４　）などを行いました。こうした政策を（　５　）といいます。その一方、貿易の自由化により外国から安い米が入るようになり、農家の経営をあっぱくしています。

問1　上の文章（　）に適することばをいれましょう。

1	後継者	2	高齢化	3	転作
4	休耕	5	生産調整 （減反政策）		

問2　農薬のかわりにあいがもを放つ「あいがも農法」の良いところを答えましょう。

あいがもが害虫を食べてくれること
あいがものふんを肥料として利用できること

問3　農家がインターネットなどを利用し、消費者に直接、米を販売することを何といますか。

産地直送